

(様式第1号)

指定管理者制度導入施設の管理運営に関する評価票(評価対象年度:平成30年度)

施設の名称	宮城県障害者福祉センター
指定管理者の名称	社会福祉法人 宮城県障がい者福祉協会
施設所管部課(室)	保健福祉部障害福祉課

1. 当該施設の管理形態の推移【施設所管課記入】

期間	管理形態	指定管理者(管理受託者)の名称	摘要
平成21年4月 ~ 平成26年3月	指定管理者	社会福祉法人 宮城県身体障害者福祉協会	
平成26年4月 ~ 平成31年3月	指定管理者	社会福祉法人 宮城県身体障害者福祉協会	
平成31年4月 ~ 令和6年3月	指定管理者	社会福祉法人 宮城県障がい者福祉協会	

(注)管理形態欄には, 直営・管理委託・指定管理者の別を記入してください。

2. 現指定管理者の概要【施設所管課記入】

指定管理者の名称	名称	社会福祉法人 宮城県障がい者福祉協会
	所在地	仙台市宮城野区幸町4丁目6-2
指定期間	平成31年4月1日 ~ 令和6年3月31日(5か年)	
募集方法	<input checked="" type="checkbox"/> 公募 <input type="checkbox"/> 非公募	

3. 施設の概要【施設所管課記入】

施設の名称	宮城県障害者福祉センター	
所在地	仙台市宮城野区幸町4丁目6-2	
設置年月	昭和58年4月	
根拠条例等	障害者福祉センター条例	
設置目的	障害者に関する各種の相談に応じ, 障害者に対し必要な便宜を供与するとともに, 障外者の福祉に関する研修, ボランティア養成等を行い, 障がい者の総合的な福祉の増進を図るため。	
施設の内容	敷地面積	23,102,57 m ²
	構造	鉄筋コンクリート造3階建
内容	事務室, ロビー, 展示, 相談室, 図書閲覧室, 機械室, 管理人室, 湯沸室, トイレ(男女, 多目的), 日常生活訓練室, 宿泊室, 談話室, 食堂, 配膳室, 浴室, リネン室, 社会適応訓練室, 介助技術訓練室, 会議室(小中大), 倉庫など	
開館(所)日	日~土曜(火曜, 祝日, 年末年始除く)	
開館(所)時間	午前9時00分 ~ 午後9時00分	
指定管理者が行う業務の範囲	・センターの設置目的に即した業務(施設の提供, 相談及び研修など) ・施設全体の管理運営業務(運営推進委員会, 利用者懇談会) ・施設の使用許可申請の受付及び許可業務 ・機械設備の操作・日常点検業務 ・施設全体の維持管理業務(清掃及び保守点検等) ・施設の亡失等の届出受理及び報告業務	
利用料金制	採用の有無	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
	利用料金の名称	

4. 施設利用実績【施設所管課記入(太枠内は指定管理者記入)】

(1) 開館(所)日数及び利用者数

項 目	事業計画	実 績		対計画比 (C)/(A)	対前年度比 (C)/(B)
	評価対象年度 (平成30年度) (A)	前 年 度 (平成29年度) (B)	評価対象年度 (平成30年度) (C)		
開館(所)日数	295 日	296 日	295 日	100.0%	99.7%
延べ利用者数	36,000 人	36,334 人	36,823 人	102.3%	101.3%

(注)対象施設が複数ある場合は、施設ごとに記入してください。

(2) 延べ利用者数の内訳

項 目	事業計画	実 績		対計画比 (C)/(A)	対前年度比 (C)/(B)
	評価対象年度 (平成30年度) (A)	前 年 度 (平成29年度) (B)	評価対象年度 (平成30年度) (C)		
各種事業参加者	4,320 人	4,340 人	3,886 人	90.0%	89.5%
自主事業参加者	580 人	615 人	649 人	111.9%	105.5%
その他施設利用者	31,100 人	31,379 人	32,288 人	103.8%	102.9%
	人	人	人		
	人	人	人		
合 計	36,000 人	36,334 人	36,823 人	102.3%	101.3%

5. 管理運営収支実績【施設所管課記入(太枠内は指定管理者記入)】

(1) 収入 (単位:千円, %)

項 目	事業計画	実 績		対計画比 (C)/(A)	対前年度比 (C)/(B)
	評価対象年度 (平成30年度) (A)	前 年 度 (平成29年度) (B)	評価対象年度 (平成30年度) (C)		
県指定管理料	46,963	46,963	46,963	100.0%	100.0%
利用料金収入	539	342	342	63.5%	100.0%
その他	258	194	241	93.4%	124.2%
収入計 (a)	47,760	47,499	47,546	99.6%	100.1%

(2) 支出

人件費	26,889	30,291	26,682	99.2%	88.1%
施設管理費	10,886	8,628	10,831	99.5%	125.5%
事業運営費	8,422	7,191	7,966	94.6%	110.8%
その他	1,563	560	1,085	69.4%	193.8%
支出計 (b)	47,760	46,670	46,564	97.5%	99.8%

(3) 収支

収 支 (c)=(a)-(b)	0	829	982		118.5%
前期繰越収支差額	0		0		
次期繰越収支差額	0		0		

自主事業

(1) 収入 (単位:千円, %)

項 目	事業計画	実 績		対計画比 (C)/(A)	対前年度比 (C)/(B)
	評価対象年度 (平成30年度) (A)	前 年 度 (平成29年度) (B)	評価対象年度 (平成30年度) (C)		
自主財源	174	154	174	100.0%	113.0%
収入計 (a)	174	154	174	100.0%	113.0%

(2) 支出

事業費	174	154	172	98.9%	111.7%
支出計 (b)	174	154	172	98.9%	111.7%

(3) 収支

収 支 (c)=(a)-(b)	0	0	2		
前期繰越収支差額	0		0		
次期繰越収支差額	0		0		

6. 評価対象年度(平成30年度)の管理運営評価【指定管理者・施設所管課記入】

項目	事業実績 【指定管理者記入】	指定管理者の自己評価 【指定管理者記入】		県の評価 【施設所管課記入】	
			評価		評価
①管理運営体制	・職員研修については、福祉研修等の外部研修に各職員を派遣いたしました。また、毎朝、打合せ時に手話研修を取り入れ、窓口での手話対応ができるように学習を重ねました。 ・利用者の安全確保を重視し、救急救命講習を受講いたしました。	・職員間の連携・協力により、事業の実施及び貸し館業務を滞りなく実施いたしました。 ・事業関連の講座や職員の資質向上をめざし、各種の研修に参加し、日々の業務に反映することができました。 ・大規模な交流事業には、企業や地域住民からの安定した協力支援を受け、開かれた施設として成長しています。	A	必要な職員が適正に配置されており、事業が適切に実施されている。 施設利用者への配慮、障害者への情報保障といった面で全職員を対象とした手話学習の取組や各種行事を開催する際は、地域住民や近隣小中学校へ周知するなど積極的取組んでいる。	A
人員体制	正規 5 人 非正規 2 人				
②施設・設備の維持管理業務の実施	昭和58年の開所であり、施設・設備等随所に老朽化が見られるので、設備保守管理業者並びに器具類取り扱い業者と緊密に連絡を取り保守点検、修理等を実施いたしました。(業務実績)・各保守点検等・玄関自動ドア・消防用呼水槽修繕、駐車場区画線設置工事等	・照明器具等や蛇口の日常点検や除雪などは職員で実施し、節水・節電を留意しました。 ・廊下や床の汚れ等で転倒事故が起こらないよう、始業時に各室の点検・清掃に配慮いたしました。 ・各室の換気扇やブラインド等の交換を図り改善できました。	S	施設の老朽化が懸念される中、職員による直営修繕や安全管理など取組んでおり、維持されている。 施設の備品・物品の管理については、数量が多いため、再度、在庫確認の上、適切に台帳管理し、報告願いたい。	A
③運営業務(ソフト事業等)の実施	業務仕様書に基づき業務を実施いたしました。 ①相談事業 ②研修事業 ③日常生活支援事業 ④スポーツ・レクリエーション・芸術文化・交流事業 ⑤広報・啓発事業 ⑥施設の便宜提供 ⑦サービスの向上に係る取り組み ⑧環境配慮の取り組み	・職員は各事業のよりよい運営はもちろんのこと、各参加者とのコミュニケーションを豊かにとり、ニーズの把握や安心・信頼を深める努力を重ねました。 ・広報・啓発事業「みやぎKEYMANの輪推進事業」では学校や企業等に向いてCHプログラムでの提供や地域の機関と連携をとり障がいのある方が出演するコンサートを企画いたしました。 ・事務所内や窓口での対応は和やかな明るい雰囲気心がけました。	A	事業計画どおり実施されており、また、参加者数も前年度比で約9割を維持しており、今後も継続して取組んでいただきたい。 一般企業からの申出により障害理解に関する出前講座を開催したことは評価している。今後は施設を利用した取組として開催できないか是非検討していただきたい。	A
④自主事業の実施	(1)出前「趣味の教室」 (2)ライブメッセージ2019!	・出前プログラムが前年度より件数、人数とも倍増しました。 ・障がいのある方が主張や活動を発表する機会に共感の声があり、出演の要望が増えました。	S	出前講座により、県民へ施設を周知する取組は、地域住民ほか、周辺企業の施設事業への参加に繋がっており、参加者数も大幅に増加していることから、継続して取組んでいただきたい。	S
⑤利用者サービスの向上	・運営推進委員会の開催(年2回) ・利用者懇談会の開催(年1回) ・隣接施設との協力体制の強化 ・ホームページの管理・要望への迅速な対応 ・物品の無料貸し出し ・ロビーの開放・展示場所の提供・部屋の貸し出しの前の点検 ・定期利用団体への貸出ロッカーの提供 ・毎朝の消毒による感染予防・全職員が手話学習に取組み、窓口対応に必要な手話を身につけました。	・各会議で寄せられた施設へのご意見・ご要望には迅速な対応・改善に努め、次年度事業につなげるなど運営に反映させました。 ・隣接の障害者総合体育センターや温水プールと連絡会を設け、情報の共有やサービスの向上を視野に連携を深め、各事業運営に反映させました。 ・利用者が快適に施設を利用できるように左記項目について取組みました。 ・各職員の手話での窓口対応がスムーズになってきました。 ・施設の代表メールアドレスを設けました。	A	施設運営推進協議会や利用者運営懇談会等、利用者からの要望を検討し、利用者の利便性等を考慮しながら、適切に対応している。	A
⑥利用者の苦情、要望等の把握とその反映	・ご意見ポスト「ケヤッキーあのおね」の設置0件 ・口頭・電話による要望受付8件(解決6件) ・苦情受付の窓口設置0件	・迅速な対応・解決・改善を心がけ、対応いたしました。予算や大規模な修繕にかかる案件に関しては、その調整にお時間をいただくことを承諾していただいております。	A	施設の老朽化に伴う修繕に関する要望が多い中、適切に対応しており、可能な範囲で施設修繕など反映している。	A
⑦安全対策	・駐車場不足に伴う交通整理 ・利用者の誘導の徹底・点字ブロック上の安全確保(車両移動) ・地震等災害発生時、館内放送・電光掲示板での情報提供。 ・消防避難訓練の実施2回(資料9) ・消防設備点検・施設内外設備点検・災害用非常食・救急用品の備蓄・防災対策、交通安全の注意喚起・研修・福祉避難所の設置及び管理運営に係る協定締結	・避難訓練には利用者の方々にご参加いただき、その際のご意見を次回の訓練に反映させ改善を図ることができました。 ・当センター利用者が安心してご利用いただけるよう、安全面での確保を図りました。 ・地震の時には速やかな情報の提供、避難誘導・安全な環境の確保を心がけ実践いたしました。	S	消防避難訓練を年2回実施する際に、訓練内容をその都度見直すなど工夫がされていた。 その他、施設、設備の保守点検業者と相談の上、老朽化が懸念される箇所、設備については、年間の点検回数を増やすなど取組がなされており、適切に対策が施されている。	A
⑧県民の平等利用	施設内の会議室等利用申込受付については、申込みの公平性を保つため、6ヶ月前の1日から受付とし、毎月1日は予約専用ダイヤルで1団体・1個人につき1件の予約を受け付ける法式を実施。	・FAXによる受付もおこない、申請の方法を増やし聴覚に障がいのある方もご利用でき、利用数も増加しました。 ・ホームページを見ての県内外からの利用問い合わせも多く、新規利用につながっています。優先予約受付日はルール遵守に努め、公平性を徹底いたしました。	A	会議室等の利用申込については、適切に平等利用に配慮している。今後は、インターネットによる申込の需要にも対応を検討していただきたい。	A

項目	事業実績 【指定管理者記入】	指定管理者の自己評価 【指定管理者記入】		県の評価 【施設所管課記入】	
			評価		評価
⑨個人情報の保護	・各事業の申込み書の取り扱いに注意し、使用後の破棄の作業はシュレッダーを使用いたしました。 ・催事に関して、報道機関へもルール遵守をお願いいたしました。	法令等を遵守し、適正に管理しました。	S	個人情報に関する書類は、執務室内の書棚で保管されており、書類のほか、USBメモリや電子データの外部への持ち出しは一切行っておらず適正に管理されていた。	A
⑩利用実績	上記「4施設利用実績」のとおり(資料10)	・利用団体の会員減少の状況はあるものの、新規団体の利用の定着もあり、前年度より利用人数は増加しました。	S	自己評価にもあるとおり、前年度比で延489人、年度当初の計画費比で延823人の増員であり、利用者増加策に努めた成果が伺える。	A
⑪収支実績	上記「5管理運営収支実績」のとおり(資料11)	・シャワートイレへの交換で水道料増に危惧はありましたが、支出面では業務運営に支障がでない状況で節約を実施いたしました。	S	経費節減に努めながら、施設の老朽化に伴う維持修繕を実施しつつ、適正に行われていた。	A
⑫その他の取組	①虐待防止への取組 ②地域・住民関係機関との連携 ③環境配慮の取組状況	・虐待防止委員会を設置し、啓発や防止に努めました。 ・地域住民の方々から障害福祉に関心を持ち、おまつりやイベント・各教室への参加がありました。 ・日頃から職員はリサイクルに取組み、更に利用者にも理解と協力を図りました。 ・宮城県の「わが社のe行動」宣言に基づき、環境配慮実践事業者としての再登録を完了いたしました。(H31.4.9)	S	環境配慮への取組が適切に行われていたほか、地域住民や周辺の関係機関との連携については、実際、施設が主催する行事への参加なども見受けられ、今後も継続して取組んでいきたい。	A
総合評価		・障害者自立支援の地域社会資源としての役割を踏まえ、より多くの方々に親しまれる施設を目指し、これまでの指定管理者として培った実績を管理・運営に反映し、多岐にわたる事業を展開いたしました。 ・利用者にとって安心して安全に利用できる施設であることを根幹とし、利用者本位の充実を基本とし、関係機関との緊密な連携や協力のもと円滑で安定した運営を行うとともに、老朽化が顕著である施設の整備や環境配慮に努めました。 ・5年間をとおして、教室へ参加するリピーターも増加し、良好な交流空間を提供できました。当センターでの活動をライフワークとして活用し、活躍する当事者も増えました。今後も身近な社会参加を支援する拠点であるように努めます。	A	施設の老朽化により、修繕箇所が増加する中、適切に維持管理されている。 なお、出前講座等を長年継続して実施することで、施設のPRとなり、地域住民や周辺企業からの事業参加に繋がっており、それによって施設利用者の増加にも影響しており、評価される。 備品管理においては、数量が多いこと、老朽化に伴い備品の更新が相継ぐなど、管理台帳の整理が必要であり、今後も継続して適正な管理に努めていきたい。	A

【指定管理者が行う自己評価の基準(目安)】

評価	評価の考え方
S	年度事業計画書等の内容を上回る実績であり、優れた管理運営を行った。
A	年度事業計画書等の内容と同程度の実績であり、適正な管理運営を行った。
B	年度事業計画書等の内容を下回る実績であり、さらなる工夫・改善が必要である。
C	年度事業計画書等に基づく管理運営が適切に行われなかった。大いに改善努力が必要である。

【県が行う評価の基準(目安)】

評価	評価の考え方
S	年度事業計画書等の内容を上回る実績であり、優れた管理運営が行われた。
A	年度事業計画書等の内容と同程度の実績であり、適正な管理運営が行われた。
B	年度事業計画書等の内容を下回る実績であり、さらなる工夫・改善が必要である。
C	年度事業計画書等に基づく管理運営が適切に行われたとは認められず、大いに改善努力が必要である。

7. 施設管理運営の課題等【指定管理者・施設所管課記入】

項 目	指定管理者 【指定管理者記入】	県 【施設所管課記入】
管理運営の課題等	<p>・これからの共生社会の担い手となるべく、地域の社会資源のひとつとして、「障がいのない社会」づくりに貢献できるよう、より多くの利用や活用を促すよう更なる事業の実施や施設設備の充実が求められています。</p> <p>・地域の方々に気軽にご利用いただき、障害のある方々との相互理解を深めていただけるよう、個人情報に十分留意しながらHPの充実、SNSの活用を図るなど施設PRのあり方や新たなプログラムの取り組みが求められています。</p> <p>・今後、Wi-Fi等の整備も視野に入れる必要があります。・「共生社会を先導していく」という地域での役割を自覚し、さらなる交流の場、生涯学習の場そしてアートを支援する場としての整備を図っていきたいと思います。</p>	<p>施設の老朽化が懸念されているが、長寿命化を念頭に、適切な維持管理と安全対策の充実を図りつつ、課題とされているWi-Fi等の整備も検討する。また、施設PR方法として、ホームページのリニューアルやSNSでの情報発信など大変有効であると判断しており、今後、導入に向けて検討を進めていただきたい。</p>